

つきたい力

- ・語彙力を向上させ、自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える力。
- ・資料から必要な情報を取り出す力。

取組みの概要・ポイント

- ・低学年から図鑑の使い方を身につけさせ、情報を探す活動を授業に取り入れる。
- ・読書の世界を広げられるように、地域の図書館と連携して様々な本を読む機会を増やす。
- ・本とインターネットの良さを知り、必要な情報を取り出し、その情報をもとに自分の意見をまとめる活動を行う

取組みについて詳しくはこちら



具体的な取組みの内容 ～情報活用能力の育成・地域図書館との連携～

学校図書館を活用した授業づくり～資料活用の力を育てる～

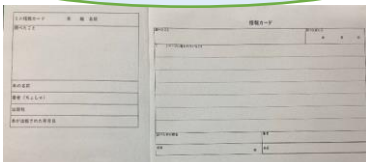
低学年でのスキルの育成

○低学年で学校図書館の使い方、本から情報を得る方法などを身に付けるための授業を行った。図鑑を使って目次と索引の学習をし、実際に調べものをして練習した。

結果

○生き物についてのクイズづくりなど、さらに図鑑や本を使った活動に取り組みむことで、本での調べものを身近なものと感じさせることができた。

情報カードの活用



低学年からの情報活用能力の育成

	低学年	中学年	高学年
図書の活用スキル	・図鑑を使って目次や索引の使い方を知る。	・百科事典、国語辞典、漢字辞典の使い方を知る。 ・引用、要約について知る。	・複数の資料を使って、情報の内容と比較し、必要な内容が何かを判断する。 ・年鑑や新聞など、学校図書館の資料の特性を知る。
タブレットの活用スキル	・画像検索 ・写真撮影 ・キーワード検索	・様々な検索の方法を知る。	・情報を整理するために思考ツールを使用する。

情報カードの工夫

○昨年度使っていた情報カードよりも小さなミニカードを作り、書くスペースを減らして要点のみを書くようにした。

結果

○書く時間が短くなったことで、本を読む時間が増えた。そのため、複数の本を読めるようになり、複数の情報の中から、より必要なものに近い情報を選択することができるようになった。



本に親しむ場づくり～読書の世界を広げる～

環境整備



読み聞かせ



本の紹介



○全国学校図書館協議会の廃棄基準に基づいて、本の廃棄を進めた。空いた本棚に本を面出しすることで、児童が表紙を見ることで、本に興味を持つことにつながった。  
○本校は読み物室と調べもの室に分けて本を置いている。調べもの室に来る機会が少ない子どもも多かったが、折り紙のイベントを開く、クイズなどを掲示する、地球儀や植物など、本に関わるものを展示するなどしたところ、調べもの室を訪れ、本を利用する子どもが増えた。

廃棄基準はこちら



○ボランティアの読み伝え  
○6年生から1年生へ、3年生から1年生への読み聞かせ（授業での取組み）  
○読書支援員の読み聞かせ（毎週）  
○休み時間の自主的な読み聞かせ  
読み聞かせは自分で本を読む機会が少ない子どもたちも本を楽しむ重要な機会であり、新しい本との出会いの場になるため、今後も機会を増やしていきたい。

○地域の図書館の図書館員に科学の本のブックトークをしてもらい、子どもたちの読書の世界が広がった。  
○図書委員会の本の紹介（給食時間の放送）  
○図書室での図書委員会からのおすすめの本コーナー  
○教職員の好きな本紹介（図書便り特別号）  
○教職員向けの図書便り（新刊や学習に使える本の紹介）

取組みを通しての子どもの変容

・今まで使っていた情報カードとミニカードから選べるようにしたところ、ミニカードを使う児童が多かった。ミニカードに書き込む際、要点を短く書くために内容を理解しようと、わからない用語などの意味を百科事典や辞書を活用して調べる児童が増えた。さらに、友だちに本を薦める際は、目次などを見せながら、書かれている内容を自分の言葉で説明していた。本やインターネットでの調べものについて肯定的な意見も76.1%から76.5%に、国語の単元テストの結果も、87.8%から88.6%と、わずかではあるが、結果が良くなっている。  
・「調べもの室」でのイベントをきっかけに、文学以外の本に興味を示す児童が増えた。また、学習に使った地域の図書館や学校図書館の本に興味を示し、学習後にも読む児童もいた。  
・今までは本よりもタブレットを使いたがる児童が多かったが、授業の中で何度もタブレットと本を交互に使ううちに「本の方が情報を探しやすい」と言う児童が複数出てきた。情報を取り出す活動に取り組む機会を増やすことで、児童が本やタブレットに慣れ親しみ、どちらかのみを使うのではなく、併用してそれぞれの良さを生かせるようになって感じた。